

2009年12月14日

大分市長 釘宮磐殿

日本共産党大分市議団

団長 大久保八太

年末年始における緊急相談窓口設置を求める申し入れ

師走に入りましたが、貴職におかれましては、日々市民の暮らしと福祉の向上のために、ご尽力されていることと存じます。

さて市民生活は、これまでの自公政権の「構造改革」路線による庶民増税、社会保障の改悪による負担増で苦しめられています。それに加え昨年暮れからのアメリカ発の金融危機を契機に、進出大企業などが横暴勝手な雇用破壊を加速させ、県内でも解雇・雇止めは4700人を超え、大分市内に集中しています。

こうしたなか、職と寮を追われるなどで、路頭に放り出される事態が進行し、命と健康に重大な被害をもたらしていることは、一刻も放置できない問題です。現在、最後のセーフティーネットである生活保護申請も急増していることもそのあらわれとします。

党議員団にも、突然の解雇通告で派遣会社の寮から放り出され平和市民公園で路上生活を強いられていた53歳男性、車で寝泊まりをしていた若いカップル、路上生活で身体がはれあがり緊急入院をした43歳男性など、どれもみな緊急に対応が求められる深刻な相談が寄せられています。

年末年始を迎えるにあたり、こうした事態に迅速に対応できるよう、大分市としても対策が求められているとします。

つきましては、下記事項について、最大限の対策を講じていただきますよう申し入れいたします。

記

- 1、年末年始、市民・市内滞在者の緊急相談に対応できるように、24時間対応できる緊急相談窓口を設置すること。
- 2、路上生活者が、市営住宅の空き部屋を一時入居できるよう緊急措置を講ずること。